

事業名 (箇所名)	高松空港ILSカテゴリⅢ化事業	担当課 担当課長名	航空局交通管制部交通管制企画課 金籠 史彦	事業 主体	大阪航空局、四国地方整備局					
実施箇所	香川県高松市				評価 年度	令和7年度				
主な事業 の諸元	高松空港において、ILSカテゴリⅢ化を行う。									
事業期間	事業採択	令和8年度	完了	令和15年度						
総事業費 (億円)	60									
目的・必要 性	<p>高松空港は、長年にわたり濃霧に起因する運航への影響が継続しており、年間平均で20便以上の欠航及び10便以上の遅延が生じているほか、条件付き運航便も発生している状況である。</p> <p>これらの課題を解消し、運航の安定性向上及び利用者利便の確保を図るため、ILSのカテゴリⅢ化を実施するものである。</p>									
便益の主 な根拠	<p>1. 便益の内訳</p> <p>①旅客・航空会社便益:54億円</p> <p>②残存価値:22億円</p>									
事業全体 の投資効 率性	基準年度	令和7年度								
	B:総便益 (億円)	76	C:総費用(億円)	50	B/C	1.5	B-C	26	EIRR (%)	4.6
感度分析	<p>建設費 (+10% ~ -10%) B/C(1.36 ~ 1.68)</p> <p>便益 (+10% ~ -10%) B/C(1.35 ~ 1.67)</p>									
事業の効 果等	<p>カテゴリⅢ化により就航率の向上及び、遅延時間の改善により、以下の効果が見込まれる。</p> <p>○到着予定便の視界不良によるダイバード、リターン、欠航、遅延が回避され、旅客の移動費用・移動時間、並びに航空会社の運航経費・事務経費が節約される。</p> <p>○上記によって到着機材が確保されることで、出発便の機材繰り欠航が抑制され、同様に旅客の移動時間・移動費用及び、航空会社の事務経費等が節約される。</p> <p>○到着予定便の視界不良による条件付き運航が回避されることで、旅客がリスク回避のために航空機の利用を取りやめ、鉄道等に切り替える必要がなくなることから、旅客の移動費用、移動時間が節約される。</p> <p>○到着予定便の視界不良により、ダイバードや欠航が発生する可能性を踏まえ、やむを得ず鉄道等を優先利用している旅客が航空機を利用するようになり、移動費用、移動時間が節約される。</p> <p>○航空機で輸送される貨物のうち生鮮品について、ダイバードや欠航による商品価値の低下が防止される。</p> <p>○上記のような運航改善に伴い、上空での着陸待機による航空機の燃料消費、あるいは代替交通手段の燃料消費が節約され、温室効果ガスの排出が抑制される。</p> <p>○視界不良時の着陸復行が減少し、空港周辺への騒音影響が軽減される。</p> <p>○悪天候時の着陸に係る乗員の精神的負荷やワークロードが軽減される。</p> <p>○空港上空での旋回や、降下・上昇の繰り返しが減少し、利用者の安心感が向上する。</p> <p>○運航の信頼性が向上することで、航空会社による新規路線開設や既存路線の増便が促進される。</p>									
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <p><都道府県の意見・反映内容></p>									